

高橋大樹(一橋大学大学院商学研究科博士後期課程)

競合企業間の相互作用と イノベーションへの対応行動

一橋商学論叢 Vol.10 No.2
pp.35~46 2015.11.

1. 本論文の主題

本論文は、技術革新と競争構造の変化に関する従来の先行研究には、複数の有力な既存企業がイノベーションに対応せず、衰退するのはなぜかという問いに対して解答していないという問題に対して、既存企業の相互作用という視点を導入し、その衰退のメカニズムについて説明している。

2. 本論文の目次

「1. はじめに」

「2. 先行研究において見過ごされてきた現象面での重要な問い」

「2-1 先行研究における本質的な問い」

「2-2 先行研究の問題点」

「3. 既存企業同士の相互作用が、イノベーションへの適応行動に与える影響」

「3-1 既存企業同士の相互作用が、イノベーションのポテンシャルに対する認識に与える影響」

「3-2 既存企業同士の相互作用が、企業の組織能力に与える影響」

「4. イノベーションへの不適切な対応の合理化」

「4-1 イノベーションへの不適切な対応の合理化と競合の変異に関する主観的な定義」

「4-2 既存企業における主観的な競合の定義

の発生プロセス」

「4-3 合理化という衰退要因を論じることの意義」

「5. 結論とインプリケーション」

3. 各節の主要内容

本論文は5節から構成されており、第1節「はじめに」では、複数の既存企業が同じように衰退してしまう場合が多いことに対して、十分説明がなされていないことを指摘しており、既存企業の相互作用という視点と、合理化することによってもたらされる衰退について指摘している。

第2節「先行研究において見過ごされてきた現象面での重要な問い」では、イノベーションを契機とした既存の有力な企業の衰退要因に関する先行研究を整理することで、その問題点について指摘している。

第3節「既存企業同士の相互作用が、イノベーションへの適応行動に与える影響」においては、既存企業間の相互作用の視点を導入し、環境の変化に対する企業の認識の方法や組織能力という衰退要因に対しての再考を行っている。

第4節「イノベーションへの不適切な対応の合理化」では、既存企業間の相互作用の視点を導入することによって、新たな問題として見いだされるイノベーションへの不適切な対応としての「合理化」という衰退要因を論じている。

最後に、第5節「結論とインプリケーション」においては、結論とその影響について論じている。

4. 本論文の貢献

本論文は、従来の先行研究では曖昧にされてきた、または看過されてきた、既存企業の衰退

要因に、既存企業間の相互作用の視点を入れることで「合理化」という衰退要因に言及している点は、貢献のひとつと言えよう。

また、議論又は再考の糸口として、同業企業同士の濃密な相互作用がある種の副作用を引き起こし、日本企業の衰退要因であることを示唆した点も評価されるべきであろう。

(別府大学国際経営学部専任講師 森 宗一)